

これからの日本社会のあり方

多文化共生の観点から

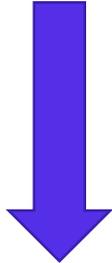
佐々木 聖子

(* 意見に及ぶところは私見です。)

1. 日本社会における外国人をめぐる主な出来事

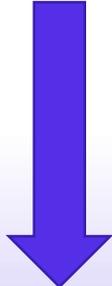


・ 受け身的受入れ（戦後～20世紀末ごろ？）



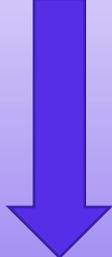
戦後 いわゆる在日韓国・朝鮮人が相当数、朝鮮半島からの不法入国問題
1975～ インドシナ難民の到来、1981 難民条約加入
1980年代 「じゃばゆきさん・くん」、農村花嫁、日本語学校増加
1989 いわゆる偽装難民問題（ポートピープルを擬した不法入国事案）
1990 入管法改正、外国人受入れの骨格定まる、これを契機に南米日系人の来日増加
1993 技能実習制度創設（以後順次拡大）、不法滞在者30万人
20世紀末ごろまで 中長期在留者・永住者増加、定着と集住の現象

・ 積極的受入れの兆し（2000年ごろ～）



2001 9.11事件、水際含めテロ対策の強化
2003 ビジットジャパン（外国人観光客の惹きつけ）
2004 難民認定制度の見直し（難民審査参与員の創設等）
2007 入国審査へのバイOMETRICS情報の活用
2008 留学生30万人受入れ計画（外国人留学生の惹きつけ）
2010 第三国定住難民受入れ
2012 高度人材ポイント制（外国人高度人材の惹きつけ、2014 在留資格化）
" 「新しい在留管理制度」（情報把握、外国人住民台帳制度創設）

・ 部分的能動的受入れ（2015年ごろ～）



その他、EPAによる外国人看護・介護関係者の受入れ（2008～）、東京オリンピック等建設労働者の受入れ、特区による家事支援人材・農業労働者の受入れ等
2018 「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」
2019 特定技能制度創設（人手不足分野への外国人受入れ）
「留学」→「技術・人文知識・国際業務」
「技能実習」→「特定技能1・2号」

社会への段階的包摂の
在留資格上の道筋

いわゆる在日コリアンの
社会運動

外国人集住都市等の先
駆的取組み

**多文化共生
推進の取組**

2006
多文化共生推進プラン、生活者としての
外国人に関する総合
的対応策

入管行政と住民行政の
連携

外国人材の受入れ・
共生のための総合
的対応策

受入れ・共生は車の両輪

2. 日本社会における外国人をめぐる課題・話題例一

現在

労働者

- ・技能実習制度は？
- ・特定技能の分野、2号の拡大は？
- ・人権擁護、労働安全は？
- ・支援の実効性は？
- ・地域社会の受入れ環境は？・・・

難民・避難民

- ・受入れ目標？
- ・受入れ方法？
- ・支援のあり方、主体？
- ・難民と避難民
- ・日本社会への包摂の仕方は？・・・

在留支援

- ・ニーズの把握方法
- ・支援の主体とコストは？
- ・社会のインフラとしての在留支援の必要性
- ・外国人本人の自立を前提とした在留支援
- ・「寄り添い」方・・・

留学生

- ・受入れ目標は？
- ・教育機関の将来展望は？
- ・資格外活動の許容度は？
- ・就職支援、その実効性は？
- ・いわゆる「大卒特活」の考え方は？・・・

退去強制手続

- ・どういう人の在留を合法化すべきか？
- ・正規在留者との公平性
- ・帰責性のない子供をどうする？
- ・収容・送還、仮放免問題・・・

永住者

- ・外国人の相当数が永住・定住者・特別永住者
- ・永住者の増加に慎重な意見はなぜか？
- ・永住許可のハードルのあり方
- ・移民の受入れとは？
- ・・・・

高度人材

- ・高度人材とは誰か？
- ・高度人材のインセンティブは何か？
- ・高度人材にどう活躍して欲しいのか。
- ・・・・

多文化共生施策

- ・総合的対応策の今後
- ・在留支援が共生社会への道？
- ・プレイヤーは誰か？
- ・「普通の」人の意識がカギ？・・・

観光客・短期滞在者

- ・訪日外国人の誘致
- ・訪日外国人との短期的（瞬間的）共生
- ・外国人の投資等問題
- ・経済安全保障・・・

日配、定住者（日系人等）

- ・日系人の受入れは何世まで？
- ・来日一世の高齢化問題
- ・日系人の集住の実態
- ・30年間の歩みから学ぶもの・・・

その他

- ・特別永住者の今
- ・中国残留孤児家族の今
- ・歴史を記憶すべきこと・・・

法制・体制

- ・時代にあった入管法制・外国人法制とは？
- ・在留資格の「別表1」と「別表2」
- ・政策宣言としての在留資格のあり方
- ・外国人庁？・・・

3. 日本社会はどうかになりたいのかー外国人問題の考え方

未来



①中長期的ビジョンからの帰結

- 人口減少時代の経済社会活動（産業構造等も）のあり方は？
- （そのために）どこまで外国人の力を借りるか？
- どのような状況を避けるべきか？
- （そうであるならば）どのような受入れ方（受入れ環境も）をするのか？
- 外国人をどのように包摂するのか？
- 地域社会において外国人をどう意識するか？
- 国際社会において日本はどう生きていくのか？
- 日本社会はどうかになりたいのか？
- （それに向けて）何をするのか？.....

幅広い議論がしたい

②実態把握とその分析からの展望

- 現行制度上、一部在留資格以外、受入れ数の上限なし。
- 受入れニーズと来日希望があり、上陸審査基準等を満たせば、来日者数・在留者数増加。
- 円滑な共生社会活動が行われているかを、リアルタイムで実態把握する必要。
- 在留支援等多文化共生施策推進の場で、外国人への寄り添いと同時に、政策等の適正性を検討するための実態把握がカギ。
- 専門的・学術的検証（海外事情の分析等も含む）による展望の裏付けも不可欠。

③テーマごとの関心の共有